

重点施策検討部会 意見のまとめ

1. 【重点施策 1】人が集まり、活気あふれるまち

将来のまちの姿①「市内外から多くの人が集まりにぎわう、東大阪市の顔となる拠点が形成されている」

本市では、大阪モノレールの南伸が決定し、長田・荒本駅周辺エリアにおいては、新駅の設置に伴い、広域の都市間アクセスが更に充実していきます。このエリアを「市の中心拠点」と位置付け、市内からだけでなく、関西の中心として人が集まる場所となるための機能拡充を図ります。また、近鉄奈良線布施駅から（仮称）瓜生堂駅までの沿線一帯や、花園中央公園におけるにぎわい機能の強化を進め、東大阪市の顔となる拠点の形成をめざします。

○東大阪市の顔となる拠点の形成

<重点施策部会での主な意見>

■「市の中心拠点」の形成

- ・“都心”の位置づけ明確に。新都心（荒本、長田）、布施
- ・荒本周辺が市の中核となる新たな拠点
- ・一定の判断のもと、どこを重点とするか決定が必要。荒本・長田～瓜生堂？モノレールくるので、きっかけは作りやすい
- ・府有地の活用：モノレールとの一体的整備
- ・荒本再開発（三角地・イオン一体的な開発）
- ・駅など～拠点間の移動への工夫（インフラ整備、にぎわい創出など）
- ・モノレールの新駅周辺になにかつくる、商業施設よりは公園を
- ・メインとなる拠点をまず決める、整備

■にぎわいゾーンの位置付けと環境整備

- ・商店街が地域の拠点
- ・（拠点）西→荒本（働・買）、東→花中（レクリエーション、住む）
- ・拠点毎（地域）の特性をうちだす（テーマを決める）

■花園中央公園の活用

- ・花園中央公園が市民の憩いの拠点
- ・花園中央公園のさらなるにぎわい創出
- ・屋外イベントができる開けた公園空間
- ・花園ラグビー場の活用、エンターテイメント、ドローンレース、プロジェクションマッピング

■その他

- ・空家バンク、土地、民有地買収、移転補償用地
- ・働→西（単世帯）、住→中・東（ファミリー）、地域の特色出した施策

○まちのイメージ向上

<重点施策部会での主な意見>

■拠点を生かしたまちのPR

- ・庁舎 22F ナイトツーリズムでの利用
- ・景観（おしゃれな外観）駅周辺の規制
- ・ニュースになるようなPR 戦略（専門部局）
- ・ファースト・インプレッション向上
- ・拠点のアピール

将来のまちの姿②「通勤、通学をはじめ、スポーツや文化活動、観光目的などで多くの人が東大阪市を訪れている」

本市は、鉄道や道路網が発達しているとともに、昼夜間人口比率が1を超え、通勤・通学などで多くの人が集まるまちです。人口減少下においても、まちの活気やにぎわいを生み出すため、学び、働く場としての環境の維持や、スポーツや文化活動、地域資源を生かした魅力的な観光コンテンツの創出などにより、交流人口と関係人口の拡大をめざします。

○市内外から人を惹きつけるコンテンツと機能の充実

<p><重点施策部会での主な意見></p> <ul style="list-style-type: none">■スポーツを生かした集客の拡大<ul style="list-style-type: none">・花中を生かしたスポーツイベント・スポーツ大会が行われ観戦で来訪・定期的なプロスポーツ試合の開催（集客イベント抱き合わせ）・近鉄ライナーズバックアップ・FC大阪バックアップ・FC大阪の地域定着■文化活動・イベント開催などによる集客の拡大<ul style="list-style-type: none">・文化活動もアピール大切、創造館を宣伝する・文化創造館での魅力的なイベント・花園中央公園や文化創造館でのイベント企画、活用自由度・音楽イベントの開催■プロモーション力の強化<ul style="list-style-type: none">・スポーツのまちアピールはラグビーがチャンス：ラグビー後もスポーツ関連イベントを呼び込むとよいと思う・市のPR動画・シティプロモーションを上手くして市の色をどんどん外へ発信していく・トライくんグッズ拡大・安全・安心・きれいなまち

○来訪者が快適に滞在できる環境づくり

<p><重点施策部会での主な意見></p> <ul style="list-style-type: none">■インバウンド対応<ul style="list-style-type: none">・誰もが（外国籍の方も性別、年齢にかかわらず）参加しやすいまち・観光ルートを作る・まちぐるみでのインバウンド対応（言語表示、会話、クレジットカード決済など）・外国人が楽しめるコンテンツを発掘する■商業・宿泊施設等の充実<ul style="list-style-type: none">・歴史施設で宿泊体験・宿泊施設の誘致・大規模商業施設の誘致・何度でも訪れたいような施設を作る■その他<ul style="list-style-type: none">・市民発イベントがやりやすいような窓口づくり（飲食の許可、ゴミ、公園・道路の占用など）・市内にシェアハウスを増やす

○交通の利便性を生かした快適な移動環境づくり

<p><重点施策部会での主な意見></p> <ul style="list-style-type: none">■市内移動環境の向上<ul style="list-style-type: none">・インフラの整備（交通利便性の向上）・通学・通勤便利アピール、横のラインはOK、縦のラインは整備が必要・交通の利便性が良い

将来のまちの姿③「多くの企業が集積し、活発な経済活動が行われている」

本市の「モノづくりのまち」「大学のまち」としての特徴を生かし、産学官の連携を強化することで、知と技術の融合による新たなビジネスモデルが創出される基盤づくりを進めます。また、革新的なアイデアと技術により新たなビジネスを立ち上げるベンチャー企業が多く誕生する風土づくりとして、起業しやすい環境の整備などを行い、活発な経済活動が発展的に営まれるまちをめざします。

○産学官連携の強化

<重点施策部会での主な意見>

- 産学交流の場づくり
 - ・学生と企業の交流の場を作る。就職と後継者不足はマッチするはず
 - ・産学連携の橋わたし
 - ・市内大学による産業活性化研究チームの立ちあげ
 - ・大学と企業が連携した研究が進む
- ニーズのマッチング
 - ・市内企業のニーズと研究機関とのマッチング
 - ・市が大学・産業の橋渡しとなる（マッチング的な）
 - ・企業のもつ技術と大学のもつシーズを引き合わせることでできるコーディネーターを置く
- その他
 - ・小中学校ビジネス、企業教育
 - ・モノづくりに特化した地域計画
 - ・中小企業への就職

○起業しやすい環境の整備

<重点施策部会での主な意見>

- 起業を支援する仕組みづくり
 - ・起業支援
 - ・大卒の若者が起業しやすい環境の整備
 - ・起業家への支援・講習
 - ・若者起業塾
 - ・使いたい技術（ものづくり）のマッチング事業
 - ・実験的にビジネスを始める人が集まる場（まち）づくり⇒チャレンジショップ etc
 - ・ベンチャー企業に足りないもの（ヒト、モノ、カネ）を供給できる仕組み
 - ・低予算で参画しやすい起業支援
- 事業を営む場に関する支援
 - ・空き家オフィスとして活用、空き家を活用したまちなみの形成
 - ・空き家を活用したシェアオフィス
 - ・低家賃、リノベ、情報交換できる
 - ・店舗提供
 - ・事務所としての活用
- 起業にかかる財源の支援
 - ・新規参入企業への法人税の一時優遇措置
 - ・クラウドファンドの活用、金融業界などの協力
 - ・企業版ふるさと納税を育成原資に
- プロモーションの強化
 - ・宣伝が大切。ベンチャーといえど種類は様々。ある程度絞り込みが必要。医療分野とか
 - ・PR
 - ・SNSなどを活用した企業プロモーション、youtubeなども
 - ・民間企業が地域と一緒にイベントをする
- その他
 - ・他の地域との交流が増える（ノマドが増える）
 - ・ICT化の推進

2. 【重点施策2】若者・子育て世代に選ばれるまち

将来のまちの姿①「子どもたちが豊かに学び、育ち、自分らしく成長できる環境が整っている」 (子どもがターゲット)

質の高い教育で子どもたちの学ぶ意欲を育み、確かな学力の向上をはかることにより、子どもたちが夢や目標に向かっていきいきと暮らせるまちをめざします。

○学校教育の充実

<重点施策部会での主な意見>

- 学力向上の取り組みの推進
 - ・大阪府下 NO1 学力のまち
 - ・少人数制クラス・レベル別クラスの導入
- 教員の体制強化
 - ・教員の質の向上
 - ・教員の増員
- 教育環境の充実
 - ・教育施設・設備の整備
 - ・教育的支援の充実
 - ・未来市民教育の推進
- 個性を伸ばす教育の実施
 - ・大学等の最先端の教育現場との連携
 - ・STEM 教育の実施
 - ・基礎体力向上の取組

将来のまちの姿②「子育て世帯が安心して子どもを生み、育てられる環境が整っている」 (子育て中の親がターゲット)

妊娠・出産・子育て期における切れ目のない支援により、自身の描くライフスタイルに合わせ、安心して自分らしく子育てができる環境を整えます。また、子どもたちが安全で、すこやかに育つことができる地域づくりを進め、子育て世帯に選ばれるまちをめざします。

○子育て支援の充実

<重点施策部会での主な意見>

- 就学前教育・保育の充実
 - ・希望する保育所に入ることが出来る環境の構築
 - ・希望するライフスタイルを送ることが出来るための子育て支援制度の充実
- きめ細かな相談支援体制の推進（支援体制：ソフト）
 - ・行政による切れ目のない支援の一層の充実
 - ・アプリを利用したきめ細かな情報発信（切れ目の無い支援の下位事業か？）
 - ・地域ぐるみで子育てを支える仕組みづくり
- 留守家庭児童育成事業の充実
 - ・充実した放課後の居場所の提供

○子育て環境の充実

<重点施策部会での主な意見>

- 安心して子育てできる環境
 - ・安心して子どもたちが生活できる環境の整備
公園の整備、防犯カメラの設置、通学路の整備
 - ・子育て世帯にやさしいまちの形成
授乳・オムツがえスペースの充実、親子イベント
 - ・安心できる子どもの居場所づくりの推進

将来のまちの姿③「若者がまちに愛着を持って暮らし、個性や能力を発揮して活躍している」 （子育て、結婚前の）若者がターゲット

本市では、20歳から39歳の人口が転出超過となっており、将来にわたってまちの活力を維持していくためには、若者がまちに定着し、それぞれの個性や能力を発揮しながら活躍していくことが重要です。“大阪に住むなら東大阪市”と選んでもらえる、若者にとって魅力あふれるまちをめざします。

○魅力あふれるまちづくりの推進

<重点施策部会での主な意見>

- 選ばれるまちとしてのシティプロモーションの推進
 - ・ 地域別の住環境イメージの情報を発信
 - ・ ライフステージにあわせた住環境の提案
- 住み続けたいまちとして愛着の醸成
 - ・ 戦略的な情報発信によるイメージの向上
 - ・ イベントへの参加
- 定住支援
 - ・ 就労者の定住支援（奨学金の一部助成）
- 良好な住環境の創出
 - ・ 住宅密集地の解消の促進や空き家の活用を推進
- 就労支援の充実
 - ・ 若者や子育て世代に対する支援の充実

3. 【重点施策3】高齢者が活躍するまち

将来のまちの姿 「高齢者が様々な場面で自分らしく活躍し、地域社会を支えている」

高齢者が、地域や社会の中で、あらゆる世代の人たちと関わりを持ち続けることができるよう支援します。また、これまで培ってきた知識と経験を生かし、就労やボランティア活動などにおいて地域社会を支え、自分らしく活躍するまちをめざします。

○知識・経験を生かした活躍の場の充実

<重点施策部会での主な意見>

■就労しやすい環境の整備

- 企業の就労環境整備
 - ・国等の助成金を活用し、高齢者が働ける環境を整備
- 企業と高齢者を結びつける就労窓口の整備
 - ・高齢者専門の就労相談窓口設置（シルバーハローワーク）
 - ・高齢者を雇ってもらえるように、企業に働きかけ
 - ・企業を対象に、高齢者受入への理解を深めるセミナー、相談実施
 - ・高齢者を対象に、現場へもどるための研修・セミナーの開催
 - ・行政が中心となった協議体の設置

■子ども、子育て支援の場での活動促進

- ・保育OB・OGの活用
- ・学童保育での高齢者雇用促進⇒学童保育の充実
- ・子育て所管課からのニーズ抽出
- ・お年寄りが、子どものいるお家へ見守りに行く（登録制）→知らない人には預けづらい→知り合える場が必要
- ・子どもの福祉施設への関わり（見守り、食事の提供）
- ・子ども食堂での活躍

■高齢者を支える場での活動促進

- ・高齢者カフェ（仮称）の運営：元気高齢者の雇用と認知症、本人や家族の利用

■希望に応じた活躍の場の提供

- ・若手経営者とベテラン（高齢）経営者のマッチング
- ・技術を持った高齢者を登録（匠バンク登録制度）→いろんな所へ派遣
- ・ボランティアのニーズと供給のマッチングのしくみ

○地域・社会とつながる機会の充実

<重点施策部会での主な意見>

■地域との関わりづくり

- ・高齢者になってから、地域と関わり始めるのではなく、幼い頃からずっと地域と関わっていく仕組み

■多世代交流の促進

- ・自治会に子育て世代の若い人を加入させる
- ・大学で（高齢者と大学生）の交流会
- ・多世代交流センターの設置
- ・各学校（幼・保・小・中）との行事？取組？として老人ホーム等への訪問
- ・同じ施設内に高齢と保育（幼稚園）を置く
- ・高齢者の施設へ子どもと合併（将来高齢者は減るので）

■地域活動への参加促進

- ・ボランティア、NPO活動への参加（参加意識の向上）
- ・地域見守り

■イベントの開催

- ・世代間をこえるようなイベントを各地域で行う
- ・イベント、パーティー、コンサート、演劇等の開催増